

# 平成30年度 奈良県立二階堂高等学校学校 学校評価総括表

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。					総合評価
平成29年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標				
平成29年度はキャリアデザイン科3年目として初めての卒業生を送り出し、3年間のキャリア教育の積み重ねの成果が一定見られた。先生方の組織的できめ細かな指導の結果、問題行動による指導件数や遅刻数は減少した。平成30年度は、地域社会に貢献することを目指した新たな取組を始める。この取組を中核に据え、全ての教育活動でキャリア教育をより推進していく。	(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進	①学力の向上(質の高い授業・BUTによる基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得)。 ②「産業社会と人間」、「社会人基礎力(課題研究)」による、キャリアプランニング能力の育成。 ③実学教育を推進するとともに地域と連携し、社会を構成する自立した主体となる生徒の育成。 ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性を持った生徒の育成。					B
	(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成	①爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ②積極的、自主的な清掃活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を推進し、社会性、多様性を尊重する心を育む。					
	(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営	①評価と指導の一体化及びICTの活用を推進し、主体的、対話的で深い学びの実現を図る。 ②保護者や地域との連携・交流の強化のため、積極的に情報発信と情報公開を行う。 ③学年、分掌、事務室が情報を共有し、連携・協働を一層進める。 ④教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。					
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指導	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法	
学習	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。</li> <li>・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受検数500名以上。</li> </ul>	B	「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPAは3.03で、概ね達成できたが、BUTの実施方法等についてはより改善する必要がある。各種検定受験者数は482名となり目標の数値を概ね達成することができた。 観点別評価に関する職員研修の実施、ICTを活用した授業づくりを進めることができた。「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPAは2.97で、概ね達成できた。	BUTの実施要項を作成する。生徒の声を反映した教材を作成する。教員研修等を充実させる。シラバスを改善する。	次年度の新しい取組は期待できるものである。新しいICT機器を生かし、学力向上につなげてほしい。	
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。</li> <li>・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。</li> </ul>	B				
生活指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。</li> <li>・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。</li> </ul>	B	積極的に挨拶をしてくる生徒が増えた。しかし、まだまだ粘り強く取り組む必要がある。指導件数ののべ人数は昨年度比37%増で、減少させることはできなかった。 遅刻数は昨年度よりも増となった。服装・頭髪等の身だしなみについては、生徒の多様性を十分に意識した指導を展開する必要がある。 中学校訪問によって入学前に様々な情報をあらかじめ得たことで、学年当初の生徒理解がすすみ、細部にわたって配慮することが可能となった。欠席・遅刻は多くみられたが、常に家庭連絡をとって状況把握した。保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPAは3.52であった。	引き続き入学直後の指導に役立てるための中学校訪問を実施する。遅刻指導・服装指導等については、年度当初の教員研修を充実させる。	中学校訪問の成果が出ている。挨拶の出来る生徒が増えるなど雰囲気は、よりよくなっている。生徒支援の視点で生活指導をお願いしたい。	
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を大切に作る指導を徹底し、けじめある行動を心がける。さらに遅刻の減少に取り組む。遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。</li> <li>・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間の不統一のない指導を展開する。</li> </ul>	B				
	生徒理解と家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問に代えて実施した中学校訪問で得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。</li> <li>・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPA3.5以上。</li> </ul>	A				
情操指導	読書週間の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書週間中のお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(読書会やお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)</li> </ul>	A	図書委員会活動を生徒主導で行い、生徒の読書啓発活動に繋がった。また、お薦め本のリストを作成した。 文化委員会の役割を明確化し、生徒の意見を反映できた。 清掃点検の点検率95%。保護者アンケート「学校の環境美化、清掃が十分に出来ている」GPA3.46で昨年度より上昇した。 生徒会役員はよく活動してくれたが、サポーターズクラブの認知度が低かったため、トイレ掃除ボランティアの参加者は減少した。 通学路清掃は2年生の3クラスが実施した。	図書委員・文化委員・環境美化委員・生徒会役員が、各自の活動内容を把握し、自主的に出来るようにする。クリーンキャンペーンやトイレ掃除ボランティアの取組の参加数を増やすため、さらに周知を徹底する。	それぞれの文化行事は、感動できるものであった。ボランティア活動も活発に行っている。次年度の、より幅広い活動を期待する。	
	文化行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの意見を活かした芸術鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。</li> </ul>	A				
	環境美化意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。</li> <li>・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率100%)</li> </ul>	B				
	奉仕精神と勤労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動を継続し、参加延べ生徒数200名以上を維持する。</li> <li>・年間を通して各クラス年1回の通学路清掃の実施する。</li> </ul>	B				
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活性化を通して体力向上を図るために運動部への加入率をあげる(昨年度比10%増)。</li> <li>・新体力テストの校内平均で、2種目以上は奈良県の平均まで引き上げる。</li> <li>・体力向上のためのトレーニング内容を工夫した体育の授業を実施する。</li> </ul>	B	部活動の加入率は2%増であった。新体力テストで平均を超えたのは1種目であった。体力向上のためのトレーニングを工夫した授業づくりをさらに進める必要がある。 保健だよりは年五回の発行であった。保護者対象のアンケートが未実施である。	部活動の加入率向上に向け、学校全体で取り組む。体力向上に向け、研修を深める。食育充実のため、計画を見直す。	部活動の活性化を通して、生徒の体力向上をお願いしたい。	
	食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の必要性を重点的に伝えるため、生徒及び保護者対象のアンケートを実施するとともに、保健だよりは毎月発行する。</li> </ul>	B				

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指導	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率者数の目標を70%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。	A	年間を通し出席率者数は99%となった。キャリアノートを利用し、充実した情報を生徒の手に残る形で提供することができた。	教員全体で進路意識の高揚を目指し、様々な場面で指導を図る。そのために、教員間での進路指導に関する情報交換を活性化させる。	次年度の新しい取組を軸として、更なる改善・充実を図ってほしい。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対し、定期的にセミナーを実施する。該当生徒100%の参加を目標とする。	A	企業の方を招いたマナー講座や大学のゼミナール活動を模した取り組みを実施し、意識や技能を確実に高めることができた。また、該当生徒の参加率は100%となり、目標の数値を達成できた。		
地域・連携者との	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数10%増) ・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。	A	保護者の参加数は昨年度より5%程度増えた。学校評議員のアドバイスを取り入れ広報を強化できた。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実に努める。	ホームページ等を有効活用し、さらなる広報の充実を図ってほしい。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率90%以上。	B	回収率82.6%、16項目中14項目で数値が上昇した。		
	開かれた学校づくり	・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.2以上。 ・学校開放・地域交流の推進を図る。	A	「本校のHPをよく見ている」のGPAが2.69に上昇した。奈良県教育週間への参加者数は1,000人を超えた。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回避難訓練を実施し、防災教育の充実をはかる。定期的に安全点検を行う。	B	避難訓練は雨天のため体育館への避難になったが避難経路の確認等は行うことが出来た。	引き続き実施機会を確保する。	継続した取組をお願いしたい。
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・交流委員を中心にした分教室との交流学習会を実施し、インクルーシブ教育の充実を図る。	A	各クラスの交流委員を中心に全校交流学習を行った。最初はとまどいもあったが、交流を進める上で改善されていった。	交流委員会の活動内容を、より充実させる。交流学習の実施時期・方法を再検討する。	分教室との交流が活発化していることがうかがえる。今後も様々な取組をお願いしたい。
		・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取組を行う。	B	外部講師を招いての結婚差別についての講演、LINE株式会社から講師を招いてネットトラブルについてのワークショップを行った。人権ホームルームにおいてもネットモラル指導を充実させたい。		
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速で組織的に対応するために毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。	A	スクールカウンセラーを講師とした研修会を毎学期実施した。特別支援教育推進委員会は必要に応じて実施し、適切な支援ができた。		
解国教際育理	国際理解教育の深化	・国際交流研究会の活動をより国際的なものにし、多文化共生社会に対する意識を高める。	B	奈良県外国人生徒交流会に参加することができた。外国にルーツをもつ校内生徒のつながりを来年度は強化していきたい。	外国にルーツをもつ生徒の把握と保護者の連携を迅速に行う。	
研究研修	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携を強化し、合同の校内研修会を実施する。	A	SCによる研修会を毎学期実施した。交流委員会担当者を中心に分教室と連携した。	両校生徒の相互理解が深まる取組を増やす。授業公開は、運営上の工夫を重ね、授業改善につなげる。	若手教員が多いので、さらなる研修の機会を設けてほしい。
		・教科の枠を超えた授業公開・研究の実施(延べ参加人数昨年度比10%増)。	B	・教科の枠を超えて多くの先生方に参加いただいたものの、参加人数は、昨年度と比較して10%増には届かなかった。 ・授業研究評価シート作成など、授業研究を行う視点などを明確にし、共通理解を図った。		
第一学年	基本的生活習慣の確立・規範意識の向上	・欠席・遅刻、身だしなみや挨拶、言葉遣いへの意識を高めさせ、社会人基礎力の基盤をつくる。生徒との対話を日常的に行うことを心がけ、信頼関係を強化する。	B	昨年度の第一学年に比べ、欠席・遅刻数ともに増加したが、個々の生徒に寄り添いながら、面談やカウンセリング等を重ねた。遅刻・欠席数の減少と生徒個々に対してのより細かな指導を強化していきたい。	生徒個々の課題と向き合い、その生徒に対して適切な指導をするために教員間の連携を深める。	一人ひとりの生徒に応じた、きめ細やかな指導が成果を上げている。これまで以上に地域や家庭との連携を深め、生徒の実態に即した指導を期待する。
		・生徒の可能性を伸ばし、主体性と協調性をもった生徒を育成する。	B			
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・自ら身だしなみを意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(平成29年度第1学年比10%減)	B	個々の進路実現に向けての取り組みや前向きな姿勢が、徐々に高まってきている生徒は増えた。遅刻数は1年次に比べ増加した。進路補習については継続的に参加する生徒が固定化されているので、今後は参加人数を増やしていきたい。	3年次には、進路実現に向けての具体的な取組を進める。	
		・授業・BUTを大切に、進路補習等に積極的に参加させる。	B			
第三学年	生徒の進路希望の充実を図る	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、放課後の面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(欠席および遅刻総数第2学年時比10%以上減)	B	進路セミナー等を数多く実施し、効果を上げた。欠席数は1%の減少。遅刻数は総数としてはプラス37%(2学期末現在での比較)だが、学年末に向け減少傾向にあった。	家庭との連携を一層密にし、生徒との面談や声かけの機会を増やす。	
		・爽やかな挨拶や適切な言葉遣いなどの社会人基礎力を身に付けさせる。	B			
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6以上。	B	GPA3.56で過去最高の一昨年度とほぼ同じ。	より魅力的な新しい取組を行う。	

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

# 平成30年度 奈良県立二階堂高等学校学校 学校評価総括表

No.1

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。				総合評価
平成29年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標			B
平成29年度はキャリアデザイン科3年目として初めての卒業生を送り出し、3年間のキャリア教育の積み重ねの成果が一定見られた。先生方の組織的できめ細かな指導の結果、問題行動による指導件数や遅刻数は減少した。平成30年度は、地域社会に貢献することを目指した新たな取組を始める。この取組を中核に据え、全ての教育活動でキャリア教育をより推進していく。	(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進	①学力の向上(質の高い授業・BUTによる基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得)。 ②「産業社会と人間」、「社会人基礎力(課題研究)」による、キャリアプランニング能力の育成。 ③実学教育を推進するとともに地域と連携し、社会を構成する自立した主体となる生徒の育成。 ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性を持った生徒の育成。				
	(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成	①爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ②積極的、自主的な清掃活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を推進し、社会性、多様性を尊重する心を育む。				
	(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営	①評価と指導の一体化及びICTの活用を推進し、主体的、対話的で深い学びの実現を図る。 ②保護者や地域との連携・交流の強化のため、積極的に情報発信と情報公開を行う。 ③学年、分掌、事務室が情報を共有し、連携・協働を一層進める。 ④教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。				
分野	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指導	自己評価結果※	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受検数500名以上。	B	「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPAは3.03で、概ね達成できたが、BUTの実施方法等についてはより改善する必要がある。各種検定受験者数は482名となり目標の数値を概ね達成することができた。 観点別評価に関する職員研修の実施、ICTを活用した授業づくりを進めることができた。「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPAは2.97で、概ね達成できた。	BUTの実施要項を作成する。生徒の声を反映した教材を作成する。教員研修等を充実させる。シラバスを改善する。	次年度の新しい取組は期待できるものである。新しいICT機器を生かし、学力向上につなげてほしい。
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。	B			
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。	B	積極的に挨拶をしてくる生徒が増えた。しかし、まだまだ粘り強く取り組む必要がある。指導件数ののべ人数は昨年度比37%増で、減少させることはできなかった。 遅刻数は昨年度よりも増となった。服装・頭髪等の身だしなみについては、生徒の多様性を十分に意識した指導を展開する必要がある。 中学校訪問によって入学前に様々な情報をあらかじめ得たことで、学年当初の生徒理解がすすみ、細部にわたって配慮することが可能となった。欠席・遅刻は多くみられたが、常に家庭連絡をとって状況把握した。保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPAは3.52であった。	引き続き入学直後の指導に役立てるための中学校訪問を実施する。遅刻指導・服装指導等については、年度当初の教員研修を充実させる。	中学校訪問の成果が出ている。挨拶の出来る生徒が増えるなど雰囲気は、よりよくなっている。生徒支援の視点で生活指導をお願いしたい。
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切に作る指導を徹底し、けじめある行動を心がける。さらに遅刻の減少に取り組む。遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間の不統一のない指導を展開する。	B			
	生徒理解と家庭との連携	・家庭訪問に代えて実施した中学校訪問で得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPA3.5以上。	A			
情操指導	読書週間の定着	・読書週間中のお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(読書会やお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)	A	図書委員会活動を生徒主導で行い、生徒の読書啓発活動に繋がった。また、お薦め本のリストを作成した。 文化委員会の役割を明確化し、生徒の意見を反映できた。 清掃点検の点検率95%。保護者アンケート「学校の環境美化、清掃が十分に出来ている」GPA3.46で昨年度より上昇した。 生徒会役員はよく活動してくれたが、サポーターズクラブの認知度が低かったため、トイレ掃除ボランティアの参加者は減少した。 通学路清掃は2年生の3クラスが実施した。	図書委員・文化委員・環境美化委員・生徒会役員が、各自の活動内容を把握し、自主的に行えるようにする。クリーンキャンペーンやトイレ掃除ボランティアの取組の参加数を増やすため、さらに周知を徹底する。	それぞれの文化行事は、感動できるものであった。ボランティア活動も活発に行っている。次年度の、より幅広い活動を期待する。
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした芸術鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。	A			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率100%)	B			
	奉仕精神と勤労観の育成	・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動を継続し、参加延べ生徒数200名以上を維持する。 ・年間を通して各クラス年1回の通学路清掃の実施する。	B			
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	・部活動の活性化を通して体力向上を図るために運動部への加入率をあげる(昨年度比10%増)。 ・新体力テストの校内平均で、2種目以上は奈良県の平均まで引き上げる。 ・体力向上のためのトレーニング内容を工夫した体育の授業を実施する。	B	部活動の加入率は2%増であった。新体力テストで平均を超えたのは1種目であった。体力向上のためのトレーニングを工夫した授業づくりをさらに進める必要がある。 保健だよりは年五回の発行であった。保護者対象のアンケートが未実施である。	部活動の加入率向上に向け、学校全体で取り組む。体力向上に向け、研修を深める。食育充実のため、計画を見直す。	部活動の活性化を通して、生徒の体力向上をお願いしたい。
	食育の充実	・朝食の必要性を重点的に伝えるため、生徒及び保護者対象のアンケートを実施するとともに、保健だよりは毎月発行する。	B			

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指導	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率者数の目標を70%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。	A	年間を通し出席率者数は99%となった。キャリアノートを利用し、充実した情報を生徒の手に残る形で提供することができた。	教員全体で進路意識の高揚を目指し、様々な場面で指導を図る。そのために、教員間での進路指導に関する情報交換を活性化させる。	次年度の新しい取組を軸として、更なる改善・充実を図ってほしい。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対し、定期的にセミナーを実施する。該当生徒100%の参加を目標とする。	A	企業の方を招いたマナー講座や大学のゼミナール活動を模した取り組みを実施し、意識や技能を確実に高めることができた。また、該当生徒の参加率は100%となり、目標の数値を達成できた。		
地域・連携者との	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数10%増) ・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。	A	保護者の参加数は昨年度より5%程度増えた。学校評議員のアドバイスを取り入れ広報を強化できた。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実に努める。	ホームページ等を有効活用し、さらなる広報の充実を図ってほしい。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率90%以上。	B	回収率82.6%、16項目中14項目で数値が上昇した。		
	開かれた学校づくり	・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.2以上。 ・学校開放・地域交流の推進を図る。	A	「本校のHPをよく見ている」のGPAが2.69に上昇した。奈良県教育週間への参加者数は1,000人を超えた。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回避難訓練を実施し、防災教育の充実をはかる。定期的に安全点検を行う。	B	避難訓練は雨天のため体育館への避難になったが避難経路の確認等は行うことが出来た。	引き続き実施機会を確保する。	継続した取組をお願いしたい。
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・交流委員を中心にした分教室との交流学習会を実施し、インクルーシブ教育の充実を図る。	A	各クラスの交流委員を中心に全校交流学習を行った。最初はとまどいもあったが、交流を進める上で改善されていった。	交流委員会の活動内容を、より充実させる。交流学習の実施時期・方法を再検討する。	分教室との交流が活発化していることがうかがえる。今後も様々な取組をお願いしたい。
		・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取組を行う。	B	外部講師を招いての結婚差別についての講演、LINE株式会社から講師を招いてネットトラブルについてのワークショップを行った。人権ホームルームにおいてもネットモラル指導を充実させたい。		
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速で組織的に対応するために毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。	A	スクールカウンセラーを講師とした研修会を毎学期実施した。特別支援教育推進委員会は必要に応じて実施し、適切な支援ができた。		
解国教際育理	国際理解教育の深化	・国際交流研究会の活動をより国際的なものにし、多文化共生社会に対する意識を高める。	B	奈良県外国人生徒交流会に参加することができた。外国にルーツをもつ校内生徒のつながりを来年度は強化していきたい。	外国にルーツをもつ生徒の把握と保護者の連携を迅速に行う。	
研究研修	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携を強化し、合同の校内研修会を実施する。	A	SCによる研修会を毎学期実施した。交流委員会担当者を中心に分教室と連携した。	両校生徒の相互理解が深まる取組を増やす。授業公開は、運営上の工夫を重ね、授業改善につなげる。	若手教員が多いので、さらなる研修の機会を設けてほしい。
		・教科の枠を超えた授業公開・研究の実施(延べ参加人数昨年度比10%増)。	B	・教科の枠を超えて多くの先生方に参加いただいたものの、参加人数は、昨年度と比較して10%増には届かなかった。 ・授業研究評価シート作成など、授業研究を行う視点などを明確にし、共通理解を図った。		
第一学年	基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上	・欠席・遅刻、身だしなみや挨拶、言葉遣いへの意識を高めさせ、社会人基礎力の基盤をつくる。生徒との対話を日常的に行うことを心がけ、信頼関係を強化する。	B	昨年度の第一学年に比べ、欠席・遅刻数ともに増加したが、個々の生徒に寄り添いながら、面談やカウンセリング等を重ねた。遅刻・欠席数の減少と生徒個々に対してのより細かな指導を強化していきたい。	生徒個々の課題と向き合い、その生徒に対して適切な指導をするために教員間の連携を深める。	一人ひとりの生徒に応じた、きめ細やかな指導が成果を上げている。これまで以上に地域や家庭との連携を深め、生徒の実態に即した指導を期待する。
		・生徒の可能性を伸ばし、主体性と協調性をもった生徒を育成する。	B			
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・自ら身だしなみを意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(平成29年度第1学年比10%減)	B	個々の進路実現に向けての取り組みや前向きな姿勢が、徐々に高まってきている生徒は増えた。遅刻数は1年次に比べ増加した。進路補習については継続的に参加する生徒が固定化されているので、今後は参加人数を増やしていきたい。	3年次には、進路実現に向けての具体的な取組を進める。	
		・授業・BUTを大切に、進路補習等に積極的に参加させる。	B			
第三学年	生徒の進路希望の充実を図る	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、放課後の面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(欠席および遅刻総数第2学年時比10%以上減)	B	進路セミナー等を数多く実施し、効果を上げた。欠席数は1%の減少。遅刻数は総数としてはプラス37%(2学期末現在での比較)だが、学年末に向け減少傾向にあった。	家庭との連携を一層密にし、生徒との面談や声かけの機会を増やす。	
		・爽やかな挨拶や適切な言葉遣いなどの社会人基礎力を身に付けさせる。	B			
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6以上。	B	GPA3.56で過去最高の一昨年度とほぼ同じ。	より魅力的な新しい取組を行う。	

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)